

松陰教学を自分の生き方・考え方に生かす

教科・領域 総合的な学習の時間、及び日常活動

萩市立椿東小学校全学年

キャリア教育の観点

この取組は、吉田松陰の教えや生き方を学ぶ活動を通して、自分の生き方・考え方に生かし、より高い自己実現の意欲を高める活動です。

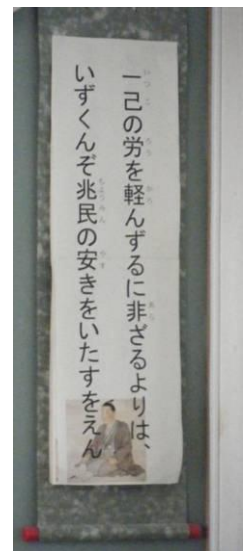
【課題対応能力】【キャリアプランニング能力】

詩文の朗唱を通して、吉田松陰の教えを学ぶ

吉田松陰の教えを学ぶ活動として、本校では、吉田松陰の残した詩文の中から11編を選び、月ごとの詩文を掛け軸の形にして教室に掲示し、毎朝、全校の学級が朗唱する活動を行っている。詩文の意味については、担当者から配付された資料を各担任が活用し、学年に相応した指導を行っている。(右図)

月	松陰先生の詩文
4	「朋友相交わるは善導をもって 忠告すること固よりなり」
5	「至誠にして動かざる者は 未だ之れあらざるなり」
6	「志を立ててもって 万事の源となす 書を読みてもって聖賢の訓をかंगाう」
7	「人の精神は目にあり 故に人を観るは目においてす 胸中の正不正は眸子の瞭ぼうにあり」
9	「人は人の心あり、己れは己れの心あり、各々其の心を心として以て相交わる 之れを心交と謂う」
10	「一己の労を軽んずるに非ざるよりは いづくんぞ兆民の安きをいたすをえん」
11	「万卷の書を読むに あらざるよりは いづくんぞ 千秋の人たるをえん」
12	「人賢愚ありと雖も各々一二の才能なきはなし 湊合して大成する時は必ず全備する所あらん」
1	「凡そ生まれて 人たらば 宜しく 人の禽獣に異なる所以を 知るべし」
2	「松下陋村と雖も 誓って神国の幹とならん」
3	「親思ふ心にまさる親心 けふの音づれ 何ときくらん」

このように、毎年11編の詩文を朗唱することで、児童の年齢、発達の段階に応じた内容の理解を図ることができるように活動を進めている。



「松陰読本」などを通して、吉田松陰の生き方を学ぶ

吉田松陰の生き方を学ぶ活動として、4～6年生では、総合的な学習の時間に、「松陰読本」(山口県教育会)を活用している。本書は9章でまとめられており、各学年で次のように内容を分けて学習を進めている。

- 4年生: 「松陰の幼年時代」、「御前講義」、「松陰の修行」
- 5年生: 「海外渡航の失敗」、「野山獄」、「幽囚室」

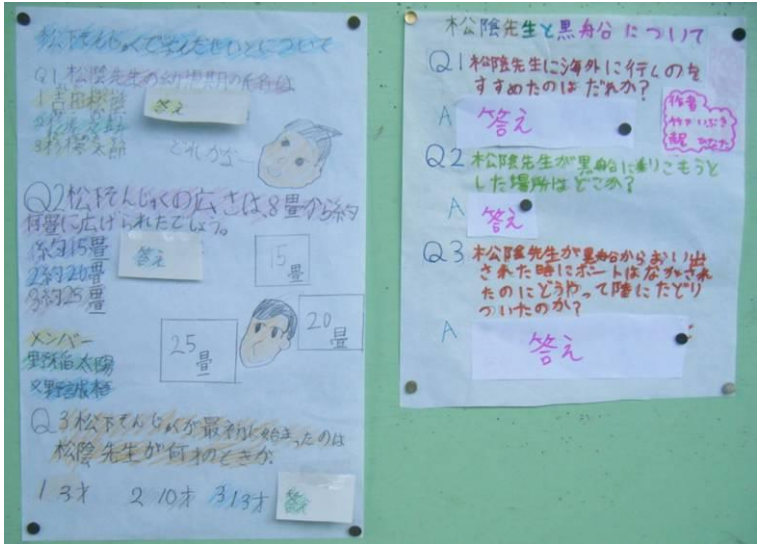
○ 6年：「松下村塾」、「なみだ松」、「松陰先生の最期」

児童は、松陰読本の内容とも関連させながら、図書室の本やインターネットも活用して調べ学習を進めていく。調べ学習を行った後、グループに分かれて紙芝居や松陰先生クイズを作ったり、各自で松陰先生新聞を作ったりして、吉田松陰の生き方について学んだことをまとめる活動を展開している。（下図参照）

松陰先生新聞



松陰先生クイズ



この学習を通して、4～6年生の3年間で、どの児童も、吉田松陰の一生を学びながら、その生き方について学ぶことができるように活動を進めている。

地域との関わりを通して、吉田松陰の教えや生き方を学ぶ

吉田松陰の教えや生き方を学ぶ活動として、4～6年生では、総合的な学習の時間に、地域と関わりながら、次のような取組も行っている。

学年	単元名	活動
4	はじめまして松陰先生	松陰先生のゆかりの地を見学する。
	伝えよう松陰先生	松陰神社の観光客に、松陰先生のガイドをする。
5	松陰先生に学ぼう	「松陰先生のお墓を守る会」の人たちの思いを知り、自分たちの活動を考える。
6	松陰先生の教えを学ぼう	全校で毎日斉唱している松陰先生の詩文の意味を調べ、松下村塾にて斉唱する。

4年生の学習「はじめまして松陰先生」を例にとり、紹介してみたい。この学習では、最初に、松陰読本や図書室の本、インターネットなどを活用して、吉田松陰の人物像を探る活動を行う。この学習をきっかけに松陰神社の見学へと活動が展開し、吉田松陰の教えや生き方について、子どもたちの調べ学習が深まっていく。これが、第1回目松陰神社の見学である。

碑文を読む



松下村塾の説明を読む



神社内の「松陰歴史館」にて



この調べ学習をもとに、さらに知りたいことを話し合い、質問内容を決めて松陰神社の宮司さんをお願いする。宮司さんに会い、直接話を聞いて疑問点を解決する。これが、第2回目松陰神社の見学である。子どもたちは、二度の見学で特に心に残った内容を3点程度にしぼり、新聞にまとめた。(右図)



この学びを発展させ、次の学習では、グループごとにテーマを決め、松陰神社の観光客にガイドをする活動（「伝えよう松陰先生」）に向けた準備を進めていく。児童からは、「松陰先生の教えた学問」、「野山獄での松陰先生の生活」、「松陰先生の弟子たち」、「松陰神社と松門神社」などのテーマが出ている。

考 察 ・ 課 題

本校では、毎朝、吉田松陰の詩文の朗唱をする声が全校で聞こえてくる。毎年、4月は「朋友相交わりて〜」、5月は「至誠にして動かざる者は〜」の詩文を朗唱するというように進めていることもあり、上の学年になるほど、児童の朗唱も流暢になっている。また、キャリア教育担当者から配付された詩文の資料をもとに各担任が学年に相応した指導を行っているため、詩文の意味について問うと、上の学年になるほど、内容を説明できる児童や、理解できている児童が増えている。

4〜6年生における総合的な学習の時間では、松陰読本などを活用した調べ学習や、地域と関わる体験活動を通して、情報を集める力や、課題を見つけ自分の力で解決しようとする課題対応能力が育ってきている。また、学習の振り返りに基づき、吉田松陰の教えや生き方から、自分の生き方・考え方に生かすキャリアプランニング能力も身に付きつつある。例えば、4年生では、「ぼくも松陰先生のように兄弟を大切にできる人になりたい」「私も松陰先生のように途中であきらめずにしっかり勉強したい」といった意見が出るのに対して、5年生、6年生と学年が上がるにつれ、「自分も松陰先生のように信念を貫く強い人間になりたい」というように、より高い自己実現に向けた生き方・考えを述べる意見が出ている。

今後の課題として考えられるのが、地域との関わりを通した松陰教学の実践の残し方である。何月頃、ゲストティーチャーの招へいや見学先との交渉を行ったのか。ゲストティーチャーとして誰を招聘したり、どこを見学したりしたのか。このような点について毎年記録を残していくことで、実践の見直しを図り、特色ある教育活動を展開することが可能になる。その仕組みを整えることができるように、担当を中心に進めていきたいと考えている。